

日 時 平成30年11月12日（月）～ 平成30年11月13日（火）
場 所 京都府東京事務所 表敬訪問

国土交通省道路整備局 国道・技術課長、政務官、
企画課長、道路局長、
高速道路課長等へ要望活動
衆議院第一議員会館 地下1階大会議室

1、要請・陳情の目的

日本海国土軸の形成に於ける高規格幹線道路の早期実現のため、山陰近畿自動車道整備推進決起大会に出席し、3府県がもたらされるストック効果並びに予算確保を訴える。決起大会に参加することで、国会議員と地方議員が団結して取り組む意識を高揚する場とし、地元議員として要望活動を行う。また、京都府内の山陰近畿自動車道の更なる延伸を進めるために、国土交通省へ財源確保を求める要望活動を行う。

2、要請・陳情活動の内容



前日の11月12日は、京都府東京事務所を表敬訪問後、国土交通省道路整備局東川直正道路局長、阿達雅志政務官、村山一哉企画課長、池田豊人道路局長、山本巧高速道路課長それぞれに要望書を提出し、大宮峰山間の早期完成に向けた予算の確保と合わせ、峰山ICから網野ICまでの国による早期事業化と、その先の久美浜、兵庫県境までの区間についての、ルート決定に向けた本格調査の実施を申し入れた。



翌日13日の決起大会は主催者側から、山陰近畿自動車道整備推進議員連盟会長の石破茂衆議院議員をはじめ、京都府選出の二之湯智参議院議員、本田太郎参議院議員をはじめ多くの国会議員が参集した。地方行政からは、京都府、兵庫県、鳥取県の各知事、三府県の議会議員などが出席した。来賓として、国土交通省の池田豊人道路局長などが出席した。また、京丹後市の三崎市長をはじめ、沿線市町の首長や地元関係者も多く出席し盛大に行われた。

まず、山陰近畿自動車道の早期実現に対して「山陰近畿自動車道整備推進協議会」「山陰近畿自動車道整備推進三府県議会議員の会」「鳥取豊岡宮津自動車道整備推進協議会」「但馬・地域高規格道路推進協議会」「丹後・地域高規格道路推進協議会」より要望書の手交が行われた。要望書は以下の4つが必要課題として上げられた。

その後、意見発表がなされ、三府県知事が地域での取り組みや成果など意見を述べ、国へ更なる高規格道路への経済効果の期待を述べた。三府県の地元経

済人の声として、京都府代表では株式会社真田代表取締役社長真田英明氏が発表した。株式会社真田は京丹後市大宮町の森本工業団地に企業進出をされる企業であり、自社の取り組みに加えて高規格道路におけるメリットである流通コストと販路拡大に大きなストック効果が期待されることから企業進出の決め手となったことを述べられた。最後には、地元市町長からの意見発表がなされ、「がんばろう」三唱で閉会した。

3、所 見

一昨年(2017)の4月に新名神高速道路の城陽IC・八幡京田辺IC間が開通したことで、ようやく京都府の南北(木津川市一京丹後市)が高速道路で結ばれ、観光客の増加など、丹後地域に大きなストック効果をもたらした。これは観光面だけではなく、我々の生活環境においても利便性の向上に繋がっている。今年はその森本工業団地に2社の企業誘致が決定し高規格道路の重要性が証明され、地元の経済の活性化に寄与するものと考えられる。この効果を大きな余波として捉えることが更なる地域経済が発展する明るい兆しとなると期待をすることである。そのためには、しっかりと高速道路を求める地元企業、行政、市民と一丸となって山陰近畿自動車道の延伸の声を国政へ届けていかなければならないと強く思う次第である。近年は災害等に多く見舞われ、全国的にも多発している災害に対しても北近畿豊岡自動車道、鳥取自動車道、山陰自動車道と連結し、防災ネットワークの構築など、多面的な要素があることから、防災・減災に寄与する重要な幹線道路である。これらの高速道路網の発達には市民にとって便利さだけではなく、日常生活に与える喜びや、また地域に新たな可能性を生み出すことにもつながる。

しかし、山陰近畿自動車道は、日本海国土軸を形成し高規格幹線道路に匹敵する重要な道路であるにも関わらず、日本海側唯一の「空白地帯(ミッシングリンク)」が存在する。現状では整備が遅れていることから、一日も早い全線開通が期待されている。この未計画な空白地帯が京丹後市に存在している。

このような課題を少しでも前に進めるためには、まずは目に見える効果として、観光の集客力につながると考える。次に企業誘致の更なる進出や地元企業の販路拡大につながり、地域経済の活性化に寄与することに繋がる。また、医療拠点を結ぶ命のネットワーク網の確保につながることである。医師の偏在があるこの地域であるからこそ、主要道路の整備は重要である。そして、大規模災害に備えたりダングランシーの確保でも道路がつながることの重要性が感じられる。地域住民の安心安全を確保するため高速道路網の整備は命の道としても

重要である。医療・災害と地域住民を守る一つ的手段として、地域住民の命を守るという住民保護の視点でも地域の道路整備は強く求めていかなければならない。そしてこれからの時代を担う若者が住みやすい環境整備に努めることが今の時代を生きる大人たちの使命であると感じた。